

二〇一九年度

豊島岡女子学園高等学校

入学試験問題

国語

注意事項

- 一. 合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 二. 問題は□**一**から□**二**、2ページから19ページまであります。
合図があったら確認してください。
- 三. 解答は、すべて指示に従って解答欄に記入してください。

□ 次の文章は、千葉雅也『勉強の哲学——来たるべきバカのために』からの一節で、勉強する際に重要なことについて論じられて

ています。これを読んで、後の一から八の各問いに答えなさい。

(ただし、字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。)

私たち人間は、言語というフィルターを挟んで現実に向き合っています。

ですから、新たな環境では、新たな言葉のノリに慣れることが課題となる。ものの名前、専門用語、略語、特徴的な話の持つていき方……。その環境ならではの言い方をわざわざしなげなければならない。これまでのノリならこんな言い方Ⅱもの見方はしない。そういう違和感があるでしょう——「わざわざ言ってる感」がある。これがひじょうに重要です。

自分にとって不自然な言葉づかい——強調しますが、それが、新しい環境におけるもの見方を構築している——は、そう言えと言われるなら、まあ、言えるわけです。言えるには言える。が、言ってるだけだという感じ。①言葉が口になじまず、「浮いた」感じがする。

ところで、本書では、自分以外のすべてを「他者」と呼ぶことにするという定義をしたのを覚えているでしょうか。この定義によれば、洗濯機でも奄美大島あまみおおしまでも、はたまたシャーロック・ホームズ*1でも「他者」と呼べるわけなのですが、そこまで広く「他者」という言い方することに違和感を覚える人は多いんじゃないかと思えます。

通常は、他者と言えば、人間の他者、つまり「他人」を指す。それに、「他者」というのはだいたい堅い言葉で、日常会話ではめったに使わないでしょう。ですが、本書では、この言い方をあえてすることで、説明をシンプルにしている。「私たちは、他人だけでなく機械とか自然環境とか、(ア)カクウカクウのものとか、さまざまな「他者」との関係のなかで生きている」ということ、これを「他者との関係のなかで生きている」と短く言えるから、便利なのです。

また、②純粹にたった一人の状態などなく、「自分は他者によって構築されている」のだ、という言い方もしました。「構築」を

人間に対して使うのも、違和感があるかもしれません。

本書での、タシヤ、コウチクといった言い方は、多くの読者に対し、ガサガサしたというかゴワゴワしたというか、「不透明な存在感」を示しているんじゃないかと思えます。言語が不透明なものとして、現実の上に「浮いて」いる感じ。

慣れない言葉づかいの「わざわざ言ってる感」は、「言語の不透明性」を示している。

通常は、他者と言え、他の人間を意味するものですが、本書という環境では、新たな言葉づかいとして、他者とは自分以外のすべてであるという特殊な定義をしている。ちなみに本書は、フランス現代思想という学問分野に多くを頼っており、本書を読むことは、フランス現代思想をちよつと勉強することになっています。

新たな言葉の定義には、すぐには慣れません。そのとき、言葉は一時的に、不透明な異物になる——音の塊、謎の記号になる（それをカタカナで「タシヤ」と表現している）。

不透明な異物としての言葉が、現実から浮き上がっている。

この状態が「言語それ自体」であると捉えてほしいのです。

(中略)

使い方がよくわからなくなり、ただの音になった言語、不透明に物質性を（イ）ハツキする異物となった状態が、言語それ自体であり、それを器官なき言語と呼ぶことにする。

③言語それ自体 || 器官なき言語の状態は、言葉はさまざまに別の意味で「使い直す」ことができるものなのだ、という、用法 || 意味の根本的な変更可能性を示している。

以上を受けて、まとめます。

勉強における「わざわざ言ってる感」は、次のような認識へと展開するでしょう。

違和感のある言葉と出会う ↓ 言葉の用法 || 意味は変更可能なのだ (器官なき言語) ↓ 言語は現実から切り離して自由に操作でき

いまは非現実的だとしても、「私は上海シヤンハイで働く」という可能的な状況を、言語を使って想定することで、その実現に向けてアクションを始めることができる。あるいは、「貧困に苦しむ人がいない世界」という言葉の並びをつくることで、それを旗印として社会運動が始まる。

さらには、「蜜みつの乾くような訪れ」とか（広瀬ひろせ大志『広瀬大志 詩集』現代詩文庫）、「蟻ありたちは、ひとつひとつの供述だった」とか（望月遊馬もちづきゆま『焼け跡』思潮社）、国語辞典的な普通の定義から離れた言葉づかいを勇気を出してやってみることで、詩や小説が始まる――。

ここが重要です。いま属している環境にはない可能性を、たんに言語の力で想像すること、それは文学にまで通じている、というか、それは文学することにほかならないのです。

可能性をとりあえずの形にする。言語はそのためにある。

文学という極端から逆に考えてみてほしいのですが、「私は上海シヤンハイで働く」とか「貧困に苦しむ人がいない世界」だって、詩じゃないでしょうか？ まだ現実ではない可能性を形にしている。

夢や希望を抱くことができるのは、言語を環境から切り離して操作できるからである。

この勉強論では、社会学やプログラミングを実用的に身につけることと、文学の読み書き、詩的言語を操作できるようになることを、連続したものとして捉える。

実用的な勉強をすることも、言語表現の可能性を広げることなのであり、その意味でそれは、文学的になるまでに言語の自由度を上げることへとつながっているからです。

以上のことをさらに明確にするために、ここで、二つの言語使用を区別させていただきます。

先ほど、壊れた洗濯機※2の例を出したときに、言葉は通常、「道具」であるという説明をしました。すなわち、「道具的」な言語使用。これが一番目の言語使用のあり方です。環境において、目的な行為のために言語を使うこと。たとえば、「塩を取って」というのは「依頼」であり、相手を動かして塩を手に入れるという目的のために言っている。言葉のリモコンで何かをするわけです。二番目は、たんにそう言うために言っているという言語使用。これを「玩具的」な言語使用と呼びましょう。おもちゃで遊ぶように、言語を使うこと自体が目的になっている。先ほど挙げた詩の例はそういうものと捉えてほしい。ダジャレとか早口言葉もそうですね。

この二つは重なりあって作動していますが、通常は、道具的な言語使用が前に出ている。

励ますとか、依頼するとか、(ウ)ヒナンヒナンするとか、禁止するとか……私たちの会話は、基本的にはつねに何かをしています。このような「何かを言うこととする」というのを、哲学では、「言語行為」と呼びます。言語使用は、通常は主に道具的である、つまり、何かの言語行為をしている。

他方、目的がはっきりしておらず、ある程度まで玩具的になることもあるでしょう。たとえば、友達とネタを出し合っつてしゃべっているときには、しゃべり自体が重要なわけです。しかし、そういう場合でも、「友人関係を平和に維持する」という言語行為をしていると言えます。

⑤極端に玩具的な言語使用は、通常のコミュニケーションの圏内では困難です。それは、ひたすら言葉のために言葉を使うことであり、とりわけ、先に挙げたような詩が、その状態だと考えられます。

道具的な言語使用は、何か外部の目的に向かっていている。対して、玩具的な言語使用では、それ自体を目的にしている。「自己目的」である。

よろしいでしょうか。道具的で目的的 vs. 玩具的で自己目的——この対立を、本書ではこれからさまざまな場面で使うこととなりますので、覚えておいてください。

では、もとの話に戻ります。

勉強をするさなかでは、言葉への違和感が、可能性の空間としての言語のヴァーチャル・リアリティを開くのです。

慣れ親しんだ「こうするもんだ」から、別の「こうするもんだ」へと移ろうとする狭間はざまにおける言語的な違和感を見つめる。そしてその違和感を、「言語をそれ自体として操作する意識」へと発展させる必要がある。

現実には密着した道具的な言語使用から、言語をそれ自体として操作する玩具的な言語使用へと移る。道具的な言語使用がメインになっている自分を破壊する。

自分を言語的にバラす。

バラバラの言葉のブロックが、自由に組み換えられて多様な文を形成する、しかし決定的な完成品になることはなく、組み換えの遊びが続く……そういう遊びの状態になるのです、自分自身が、そういう言葉遊びの状況そのものになるのです。

自分を言語的にバラす、そうして、多様な可能性が次々に構築されては、またバラされ、また構築されるというプロセス*3に入る。それが、⑥勉強における自己破壊である。

二つのノリのあいだで引き裂かれる——それは、自分が言語的にバラされるということ。二つのノリの狭間はざまであなたは、砕け散って、可能性の破片になる。言葉の瓦礫がれきになる。

言語の不透明性に気づき、言語をわざと操作する意識をもつようになることこそが、どんな勉強にも共通する、一般に、重要なことだと思ふのです。もちろん、フランス料理を勉強して繊細なソースをつくれるようになるとか、社会学を学ぶことでブラック企業の問題を考えられるようになるといった、特殊な課題が勉強にはある。ですがそれと同時に、あらゆる勉強に共通の、言語への意識を高めるといふ「一般勉強法」がある。料理や、あるいは美容などの技術を学ぶときにも、独特の概念や語り方による新たな言葉の世界に入るわけです。そのときの、言葉への違和感を大切にしたいのです。わざとそういう言い方をしていてという感覚です。

一般勉強法とは、言語を言語として操作する意識の育成である。それは、言語操作によって、特定の環境のノリと癒着していない、別の可能性を考えられるようになることである。

〔注〕 *1 シャーロック・ホームズⅡ推理小説家コナン・ドイルの書いた作品に登場する名探偵の名。

*2 壊れた洗濯機の例Ⅱ中略部分にある、壊れて機能を失った洗濯機は単なる物体と感じられる、と言及している箇所を指す。

*3 プロセスⅡ過程。

問一 | 線①「言葉が口になじまず、『浮いた』感じがする」とありますが、その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言葉の使い方がしっくりこないために、意味を失ったただの音声に聞こえてくるということ。

イ 新たな環境特有の言葉づかいに親しめないことから、その環境にも馴染めないと思うということ。

ウ 以前の環境とは異なる言葉の使い方であるために、その定義に反発心を覚えるということ。

エ 言葉の定義が慣れたものとは異なる環境に身を置いたために、ものの見方が変化してしまうということ。

オ 違和感があっても口に出して言えはするために、その言葉の意味を考えなくなってしまうということ。

問二 —線②「純粹にたった一人の状態などなく、『自分は他者によって構築されている』のだ」とありますが、その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の人格は親や友人など身近な人物の言動によって、潜在的に作りあげられているということ。

イ 自分一人で作り上げたと考えている思考も、先人の言動を模倣したものにすぎないということ。

ウ 自分の価値観は、生まれ育った環境や家族、出会ったものの影響を受けて存在するということ。

エ 自分一人では生きられず、親しい人物や便利な環境の力を借りて生活しているということ。

オ 自分が生まれ育った地域の言語によって、ものの見方や考え方が決定づけられるということ。

問三 —線③「言語それ自体||器官なき言語の状態は、||用法||意味の根本的な変更可能性を示している」とありますが、なぜそのように言えるのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 新たに知った言葉に馴染めない体験によって、今まで使っていた言葉も最初は馴染めなかったと思ひ出させてくれるから。

イ 的確な語句を新たに知ること、今まで自分が好んで使用していた言葉が不透明なものとして浮いて感じられるから。

ウ 慣れない言葉づかいに出会うことで、言語も他のものと同様発想次第で好きに使える物質であると気づかせてくれるから。

エ 新しい環境で言葉の用法に違和感を持つことで、今までの自分の言葉の使い方が絶対的ではないと気づかせてくれるから。

オ 慣れない言葉づかいに慣れようと努力することで、使うことのできる語彙が増え、結果的にものごとの見方も変わるから。

問四 空欄「④」に入る表現として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言語化することで夢や希望を抱き続けられ人生が豊かになる

イ 実用的な言語使用以外に文学の読み書きも可能になる

ウ 言語操作で現状実現不可能なものが実現可能なものとなる

エ 詩的言語を使いこなすためのセンスを磨くことができる

オ 言語操作によって無数の可能性を描くことができる

問五 —線⑤「極端に玩具的な言語使用は、通常のコミュニケーションの圏内では困難です」とありますが、なぜそう述べているのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア コミュニケーションとは他者との調和を保つことであり、その中で言語は調和を保つための手段であると言える。ゆえに目的として言葉を使用してしまうと、思いやりがうまく伝わらず、他者との調和が保てないから。

イ コミュニケーションとは他者との意思疎通であり、その中で言語はその目的遂行のために使用されることが想定される。ゆえに自己目的に言葉を使用すると、通常の語義から離れることがあるため意思疎通が図れないから。

ウ コミュニケーションとは他者を説得することであり、その中で言語は他者を説得するための媒体であると言える。ゆえに言葉の使用そのものを目的とすると、他者の説得という目的の達成には至らないから。

エ コミュニケーションとは自己の目的を他者に伝えることであり、その中で言語使用は目的を伝えるためのものとなる。ゆえに言葉遊びのために言葉を使用すると、目的が隠れてしまって相手にうまく伝わらないから。

オ コミュニケーションとは他者との交流であり、その中で言語は現実を正確に認識するためのものであると言える。ゆえに詩的言語を使用すると、今ある現実とは別の世界を想定してしまい、目の前の他者とは交流できないから。

問六 —線⑥「勉強における自己破壊」とありますが、どういうことですか。八十文字以内で説明しなさい。

問七 本文の内容について説明したものとして**当てはまらないもの**を次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言語は目の前にはない状況を想像し形にできるといふ点で、前向きに生きる糧となることだとと言える。

イ 言葉遊びをすることなど、言語表現の幅を広げることが必要であり、実用的な勉強はその助けとなりうる。

ウ 言葉を道具的に使用することは玩具的に使用することより劣っているが、会話では必要不可欠である。

エ 人は現実のなかを生きているが、その現実は言葉による解釈の産物であり、ありのままの現実などない。

オ 実用的な勉強を行う際にも言語表現への違和感を覚えることがあり、言葉そのものと向き合う必要がある。

問八 ー線(ア)「カクウ」(イ)「ハッキ」(ウ)「ヒナン」のカタカナを正しい漢字に直しなさい(一画一画丁寧にはっきりと書くこと)。

二 次の文章を読んで、後の一から九の各問いに答えなさい。

(ただし、**字数指定のある問いはすべて句読点・記号も一字とする。**)

競争といえば、よく知られているのは、

——生存競争——

です。これは、英語で「struggle for existence」といい、社会進化論を唱えた明治時代の哲学者のかとうひろゆき加藤弘之(一八三六—一九一六)がそれを訳したものです。あるいは「生存闘争」といった訳語もあります。

生物が生きていくために必要とする生活空間や食物は有限です。だからむやみやみと個体数を増加させるわけにはいきません。そこでその増加を制限するために、生物の世界では競争(闘争)が起きているというのが生存競争(生存闘争)の考え方です。そして、

同種個体間の競争を種内競争、異種間のそれを種間競争といいます。

(中略)

そして、そこから、①人口に膾炙した、

——弱肉強食——

といった言葉がつけられました。自然の世界は弱肉強食になっている。つまり激烈なる競争がある。したがって、弱い者が強い者に滅ぼされるのは自然の摂理であって、われわれはそれに文句を言っはならない——。と、日本人は競争を自然の摂理として是認します。是認するどころか、礼讃らいさんします。だからおまえたちは競争に負けなようにがんばれ、がんばれ、と、わたしたちは言われ続けてきました。

(中略)

けれども、現代の生物学者は、“②弱肉強食”なんて言葉は使いません。また、“生存競争”といった言葉もあまり使いません。生物学者は、自然界のあり方を、

——③食物連鎖 (Food chain) ——

と捉えています。これは、北極地方の生態系を研究した、イギリスの動物学者のチャールズ・エルトン（一九〇〇—一九二一）が唱した概念です。

まず、緑色植物が光合成によって繁殖します。その植物を植食動物が一次消費者になって消費します。ついで植食動物を食う小型肉食動物が二次消費者になり、それを食う大型肉食動物が三次消費者になります。これが自然の生態系です。

注意してほしいのは、このどこにも「競争」といった概念はありません。

もしもこのような自然の生態系に「競争」概念を持ち込むとどうなるでしょうか？ 有名な例では、アメリカのアリゾナ州カイバブ平原で、クロオジカを繁殖させるために、捕食者であるピューマやコヨーテの全滅作戦を展開しました。

その結果、最初は数千頭であったクロオジカが、十数万頭にまで増えました。

ところが、そのあと食料不足が起きたのです。あまりにも増えすぎたクロオジカが、植物の芽まで食べたために、土地が荒廃し、ほとんど全滅に近いまでに個体が減少したのです。

捕食者のいない土地は「天国」であるどころか、まさに「地獄」になってしまったのです。

わたしたちは、自然の生態系の中に競争原理を持ち込んで、その結果、④そこに「地獄」をつくりだします。クロオジカは個体の過剰を防ぐために、ピューマやコヨーテに食料を提供している。仏教の言葉でいえば、

「どうかわたしを食べてください」

と、わが身を布施しているのです。それを弱肉強食の競争原理で考えるから、捕食されるクロオジカは気の毒だ、捕食者を殺してしまえ！ となるのです。

わたしたちは、競争が悪だと知って、⑤競争原理でものを考えないようにすべきだと思えます。

このアリゾナ州のカイバブ平原で起きたと同じ出来事が、人間世界でも起きています。

一九五〇年代の前半、東アフリカのエチオピアで、マラリア^{*1}による乳幼児死亡率が八〇パーセントにも達するという、悲惨で貧しい村がありました。国連の保健機構（WHO）は、救済のため、イタリアの医師団を派遣し、マラリア撲滅作戦を展開しま

した。その結果、わずか五年でマラリアは完全に駆逐され、乳幼児死亡率も、先進国なみとはいかなかったのですが、それでも一〇パーセント程度にまで下がりました。このことはWHOの功績として、内外に喧伝けんてんされたのです。

ところが、それから十年後、事後調査のために新しい研究グループが派遣されました。しかし、彼らは、研究目標の村を発見できなかつたのです。なぜなら、村が消滅していたからです。

お分かりになりますよね。⑥「その結果、村は雲散霧消するよりほかなかつた。」

WHOが深刻なジレンマに立たされた——という有名な話です。

(中略)

では、どうすればよいのでしょうか？

そう簡単に答えられません。

しかし、わたしたちが、この世は競争原理が支配する「弱肉強食」の世である——と教え込まれてきたのが、あんがいにまちがっているのではないかということだけは、言えそうに思います。ともかく、競争原理に対する疑問だけは持つてほしいですね。

競争原理の反対は⑦共生原理です。

競争原理は、人間を孤独にします。

誰かが言っていましたでしたが、猛獣に襲われて逃げる二人は、二人ともに心の中で、

〈おまえが食われてくれ。そのあいだに、俺は走って逃げる〉

と考えています。他人の不利益が自分の利益になるのだから、そこには連帯意識はありません。しかも、誰もが、相手もそう考えていることを知っていますから、孤独を感じざるを得なくなるのです。

その孤独から人を救ってくれるのは、共生原理です。連帯意識であり、仲間意識です。

けれども、連帯意識といっても、カール・マルクス*2(一八一八—一八三三)が言った、

万国のプロレタリア団結せよ！ (『共産党宣言』*3)

あのような勇ましいものではありません。猛獣に襲われた二人が、力を合わせて猛獣と闘うのではなく、
〈もう駄目だ！ われわれは二人で一緒に食われよう〉

と覚悟をすることです。それが共生の思想です。いや、共死の思想というべきかもしれません。

(中略)

わたしがいつも使う問いかけですが、二人に一個しかパンがありません、どうしますか？ というのがあります。

回答の選択肢ですが、いちおう四つを用意しました。

- A パンを半分こにする。
- B 一人が食べて、一人は食べない。
- C 二人とも食べない。
- D パンを増やす。

けれども、最後のDは、将来の努力目標であって、当面の対応策ではありません。だから、これは削除し、A B Cの三者択一にします。

すると、たいていの人がAの「半分こ」を答えます。二人に一個しかパンを仲良く分け合って食べる姿。たしかに美しいですね。だが、この問題を少し改変して、

「二人の社員に一人分しか仕事がありません。どうしますか？」

にします。そして回答の三択を、

- A 給料を半分にして、二人の雇用を続ける。
- B 一人は社員に残し、もう一人は*5 蹴首かくしゅする。
- C 二人をともに解雇する。

にします。⑧そうすると、Aに賛成の人は少なくなります。「理想はAだけでも、実際問題としてはBにならざるを得ないよな……」ということになるのです。

じつは、ヨーロッパの福祉国家においては、基本的にAが採用されています。ところが、日本やアメリカのような非福祉国家、

競争原理を基軸にした資本主義国家においては、Bが採用されます。なぜなら、給料を半分にしても、二人の社員の雇用を続ける
と、交通費や厚生費などが二人分かかるから、一人をリストラしたほうが会社のメリットが大きくなるからです。

だとすると、Bは明らかに資本の論理です。

それに対して、Aは福祉の論理。

Cは労働組合の論理だと思えます。会社側が一人を解雇するのであれば、われわれは二人とも会社を罷めるとするのがCです。
これは労働者の仲間意識ですね。

(中略)

まあ、ともあれ、⑨現代の日本においては、人間は孤独になります。ライオンに追いかけて逃げ二人が、二人とも心の
で、

〈お前が食われる！ 俺はそのあいだに逃げるから〉

と考えているのですから、そこには人間としての仲間意識はありません。誰かが解雇されたとき、いちおう解雇をまぬがれた社
員は、

〈俺でなくてよかった……〉

安堵あんどの胸をなで下ろし、心の中でひそかに祝盃しゅくはいを上げています。それが日本のサラリーマン社会です。

でも、リストラされた人は、いちおう退職金を手にしています。だが、生き残った社員が、その後会社が倒産したために一円の
退職金も得られないケースだってあります。そしてそのとき、先に解雇された者が、心の中で、

〈ザマアミロ！〉

と喝采かつさいを送る。日本の社会は、他人の不幸を喜ぶまでになってしまっています。まさに地獄です。そしてその地獄は、⑩孤独地
獄ですよね。

〔注〕 * 1 マラリアⅡ伝染病の一種。

* 2 カール・マルクスⅡドイツの哲学者・思想家。

* 3 プロレタリアⅡ資本主義社会における賃金労働者階級のこと。

* 4 二人に一個しかパンⅡ二人に一個しかないパンを指す。

* 5 馘首Ⅱ解雇すること。

問一 ―線①「人口に膾炙した」とありますが、「人口に膾炙する」の意味として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、

記号で答えなさい。

ア 人々が会話で用いるための平易なものとなること。

イ 広く人々の口の端にのぼってもはやされること。

ウ 人の口伝えの間にいつの間にか作り出されること。

エ 多くの人々が悩まされる元凶となってしまうこと。

オ 人が口にすることがはばかられるようになること。

問二 ―線②「弱肉強食」と―③「食物連鎖」について、筆者の考える違いを述べたものとして最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 前者は食う食われるの関係が固定的であるが、後者はその関係が流動的である。

イ 前者は自然に対する人間の価値観が入っているが、後者は入っていない。

ウ 前者はかつて用いられた観念だが、後者は現代において用いられている観念である。

エ 前者は自然の中に激しい競争を見出しているが、後者は見出していない。

オ 前者は生存競争を強者が生き残ると考えているが、後者は弱者も生き残ると考えている。

問三 ―線④「そこに『地獄』をつくりだします」とありますが、この地獄はなぜ作り出されてしまったと考えられますか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 有限である空間と食糧をもとに成り立っていた均衡状態を、弱者であるクロオジカの保護目的で崩壊させてしまったため。
- イ 目的はクロオジカの繁殖であるはずなのに、強者であるピューマやコヨーテを削減することを目的とってしまったため。
- ウ 競争という意識のないはずのクロオジカとピューマやコヨーテとの関係に、競争原理を持ち込み競わせてしまったため。
- エ 自然の生態系には「競争」概念はないはずなのに、クロオジカが競争に勝つための繁殖を人為的に行ってしまったため。
- オ 二次消費者のクロオジカを捕食される観点からだけ捉えたため、三次消費者の餌えさの確保という視点を失ってしまったため。

問四 ―線⑤「競争原理でものを考えないようにすべきだ」とありますが、筆者はなぜそのように考えているのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 競争原理は弱肉強食を前提として認めているために、強者が弱者を捕食するという事態を制限することができず、結果としてより強い人間の介入を必要とってしまうことになるから。
- イ 競争原理では捕食される側が捕食する側へ食糧を提供しているという視点を持っていないため、善悪の判断に立って、一方的に捕食される側が被害者になっていると考えるから。
- ウ 競争原理は自然の生態系に見られる互いの個体数調整としての捕食関係を、弱者が犠牲になっていると捉え弱者を保護しようとするので、その結果全体の調和が崩れてしまうから。
- エ 競争原理は本来競争によって成り立っていない自然界を、捕食者と非捕食者という観点から競争に負けることが死につながる環境だと考え、より過激な競争をもたらすことになってしまうから。
- オ 競争原理は自然界のシステムとして機能している食物連鎖という現象を、局所的な捕食・非捕食関係に注目して強弱関係に置換してしまうため、その連鎖を分断させてしまうことになるから。

問五 空欄「⑥」にはどのような内容が入ると考えられますか。六十字以内で答えなさい。

問六 ―線⑦「共生原理」とありますが、本文中のこの語句の説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他人の利益のためならば自己の犠牲もいとわれないという考えに基づき、共に相手のために働きかけていこうとする原理。

イ 他人も自己も利益を追求していけるよう、危機的な状況においては力を合わせて共に闘っていく連帯意識を持つ原理。

ウ 他人を犠牲にして自己の利益追求に終始しながらも、犠牲の上に成り立つ繁栄に対して謙虚な姿勢を持つ原理。

エ 他人の犠牲に対して自己も犠牲になるという意識を持つことで、共に繁栄を目指していくような仲間意識を持つ原理。

オ 他人の利益も犠牲も自己とともにあると考えていくことで、全体の利益のために行動していく共同体を優先する原理。

問七 ―線⑧「そうすると、Aに賛成の人は少なくなりそうです」とありますが、なぜ「少なく」なるのだと考えられますか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 理想を追求すると社員の雇用は守られるが会社全体の負担が大きくなるため、感覚的にそれが難しいと感じてしまうから。

イ 理想的な雇用は社員が十分な利益を得ることが必要だと感じており、そのためには犠牲もやむを得ないと思っているから。

ウ 理想追求の上でも他者の犠牲は必要悪だと考えており、雇用を守るよりも会社の存続を優先すべきだと考えているから。

エ 競争原理では社員と仕事との不均衡を資本の無駄と捉えるため、社員を犠牲にしても均衡状態を保とうと考えるから。

オ 競争原理の理想を追求すると相手は競争相手となるため、自分が犠牲にならなければならないという意識が働いてしまうから。

問八 ―⑨「現代の日本においては、人間は孤独になります」とありますが、なぜ「孤独」になるのですか。その理由として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他者の犠牲を自己の利益につなげようという意識が強く働き、仲間意識を持つことをよしとしない風潮があるから。

イ 競争原理から他者をライバル視し、他者の不利益を自分の利益とお互いに考えていることを理解してしまっているから。

ウ 共生原理を理想としつつも現実的には他者の犠牲が必要だと知っており、自分が犠牲にならないように願ってしまうから。
エ 他者の不利益が自分の利益になると知っているため、相手をおとしめようとするこぼかりに力を注いでしまうから。

オ 現代日本では個人よりも全体の利益を優先させるため、会社と個人のつながりが個人同士の連帯より重視されるから。

問九 ―⑩「孤独地獄」とありますが、「孤独地獄」に陥っている現代日本について筆者はどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 現代日本の宿命的な状況とはいえ、現状のままでは共生原理の理想は果たされず、競争原理からの脱却を早期に図らなければならぬと考えている。

イ 現代社会の孤独を解消するためには連帯意識や共生原理が必須であり、そのためにはまず互いの不幸を喜ぶような現状から変えるべきだと考えている。

ウ 現代日本はまだ福祉や労働組合の論理が成熟しておらず、社会として発展途上にあるために、その通過点として競争社会となっていると考えている。

エ 現代社会は仲間意識を持ってないこと以上に弱肉強食を自然の摂理として捉えていることが問題であり、自己犠牲の精神こそが大切だと考えている。

オ 現代日本に浸透している、他者の不利益や不幸を喜んで自己の利益を追求するような競争原理を悪いものとし、共に生きる社会を目指すべきだと考えている。

受験番号

氏名

得点

一

問一
ア

問二
ウ

問三
エ

問四
オ

問五
イ

5×6

30

問六

返す	の	自	作	で	勉
す	可	分	す	は	強
こ	能	が	る	な	す
と	性	身	意	く	る
。	を	を	識	、	中
構	置	で	言	で	
築	く	言	語	、	
し	環	葉	そ	言	
崩	境	を	れ	葉	
す	か	使	自	を	
こ	ら	う	体	道	
と	離	こ	と	具	
を	れ	と	し	と	
繰	た	で	て	し	
り	別	、	操	て	

12

問七
ウ

問八

ア

架空

イ

發揮

ウ 非難（批難）

2×3

6

二

問一
イ

問二
エ

問三
ア

問四
ウ

5×8

40

問五

足す	きる	人が	マラ
る	食糧	が増	リア
態	で	加	が
と	は	し	撲
な	全	た	滅
つ	村	結	さ
た	民	果	れ
こ	を	、	た
と	養	村	た
。	う	で	め
	の	生	、
	に	産	村
	不	で	の

60

12

問六
エ

問七
ア

問八
イ

問九
オ

12